

日本の「知」

2025 年度

日本の魅力を探求する
東洋大学の専門家による教養講座

東洋大学では、創立者・井上円了の志を受け継ぎ、東洋大学が有する「知」を広く社会に役立てて頂くため、数多くの公開講座や生涯学習プログラムを提供しています。本講座では日本文化、経済、社会問題など様々な日本に関するトピックを取り上げ、東洋大学の専門家が講義をお届けします。日本の文化や社会問題などの背景を知ることは、日本語の理解を深めることにも繋がります。日本の文化について初めて学ぶ方、知識をさらに深めたい方、日本への留学、就職を希望する方など広く受講を歓迎いたします。



井上円了について: <https://www.toyo.ac.jp/about/founder/>

講座概要

講座期間 7/12(土)・10/4(土)・12/6(土)

講座形式 オンライン (Zoom)

受講対象 N2(JLPT) 程度以上の日本語能力を持つ外国人の方、又は日本人の方

募集コース 6 コース※²⁻⁵

定員 各回 1,000 名 (先着順)

費用 無料

申込期間 6/16(月)ー12/5(金)

※¹ コースによって申込期間が異なります。詳しくはウェブサイトでご確認ください。

申込方法 TOYO Japanese Language Program
サイトよりお申込ください。
URL: <https://toyo-jlp.com>



※² 1コースのみの参加も複数コースの参加も自由によべます。

※³ 講師の許可を得たコースに対して、コース終了後アンケートに回答した方は、当日使用した資料を閲覧することができます。

※⁴ 申し込んだ方全員、後日授業動画を閲覧することができます。

※⁵ 全員参加証をダウンロードすることができます。

開講スケジュール

2025/07/12	01	13:00～14:30	ことば・語学	東洋大学福祉社会デザイン学部 子ども支援学科 高橋 直美教授
敬語の基礎 入門編				敬語の使い方を簡単に説明します。正しい敬語を使うことは、日本での豊かな生活や日本人との良好な人間関係を 築くためにも必要です。
2025/07/12	02	15:00～16:30	都市・建築・地域社会	東洋大学理工学部 建築学科 篠崎 正彦教授
現代都市として見た東京				アジアのいくつかの国で街並み保存や住宅調査を行ってきた経験をもとに、日本の街や建物を考え直してみます。グローバル化が進む現代社会では、その国特有の建物や街が受け継がれていると同時に世界中どこにでもあるような建物と街が生まれています。伝統性と現代性がせめぎ合う世界の中で東京の建物や街の未来についても考えてみます。
2025/10/04	03	13:00～14:30	文学・芸術	東洋大学文学部 日本文学文化学科 菊地 義裕教授
百人一首を味わう				小倉百人一首は日本を代表する秀歌集です。収められた歌は四季の歌と恋の歌を中心に編まれていますから、日本の勅撰和歌集の伝統を伝えるとともに、古人がいだいた普遍的な思いをいまに伝えています。その味わいは現代の私たちにとっても魅力的なものです。百人一首の代表的な歌を取り上げ、その洗練された表現を味わうとともに、万葉集以来の日本の歌の伝統のなかで、それらがどのように形成されたのか理解を深めます。
2025/10/04	04	15:00～16:30	国際社会・外交	東洋大学国際観光学部 国際観光学科 中挾 知延子教授
外国人観光客とのよりよいコミュニケーションとは				外国からの訪日観光客の数はコロナ前をしのぐ勢いです。日本語を理解できない観光客が多い中で AI 翻訳など便利なツールが活躍しています。しかしそのような時代であるからこそ、観光の現場においても人と人との温かなコミュニケーションが求められているといえるでしょう。講座では日本における多言語翻訳ツールの現状にも触れつつ、過去の事例研究も紹介しつつ、観光客とのよりよいコミュニケーションのための取組について考えていきます。
2025/12/06	05	13:00～14:30	科学・数学	東洋大学理工学部 機械工学科 吉野 隆教授
江戸時代の文献から知る、江戸文化・折り鶴・幾何学				この講義では「折り鶴」というキーワードをもとに、江戸時代の日本文化の紹介から現代でも研究対象になっているタイリングという分野の紹介までを学際型研究の一例として紹介します。江戸時代の安定した社会はさまざまな独自文化の発展を助けました。折り紙もそのひとつです。そして、現代では "origami" という言葉は国際語にもなるほど発展しています。その代表例である「折り鶴」を通じて、江戸時代と現代の数理科学の両方を体験しましょう。
2025/12/06	06	15:00～16:30	文化	東洋大学福祉社会デザイン学部 社会福祉学科 八木 裕子教授
手で話すことば、見えてくる文化 ー日本とアメリカの手話に見ることばの多様性ー				音声を使わず「手で話す」手話には、音声言語とは異なる文化的・社会的特徴が表れています。本講義では、日本手話（JSL）とアメリカ手話（ASL）の構造や表現の違いを比較しながら、ことばの多様性や文化の映し鏡としての手話の魅力を紹介します。さらに、手話から見えてくる日本社会の特性や、ろう文化の位置づけ、共生社会に向けた課題と希望にも触れていきます。簡単な手話表現の体験も交えながら、言葉を超えたコミュニケーションのあり方を一緒に考えてみましょう。

東洋大学学長からのごあいさつ

東洋大学は東京帝国大学を卒業した若き哲学者井上円了によって、1887年に創立された私立哲学館を前身としています。そこでは、「諸学の基礎は哲学にあり」ということを建学の精神としており、「どんな問題も深く探求し、真理に向かう学び方」が大切にされておりました。また、井上円了は3度の世界一周旅行を通して見聞した様々なことを、人々に伝えるため 5,000回以上も日本全国にて講演をしています。その志を受け継ぎ、私たちも東洋大学が有する知的な財産である日本文学や歴史、あるいは社会、日本語等の分野における研究成果をできる限り多くの世界中の人々に届けたいと考えております。これからも少しずつ講座を増やして参りますので、どうぞ皆様ご期待ください。



東洋大学学長 矢口悦子